

駒場友の会

会報第17号

新入生歓迎特別講演会

三回目となる駒場友の会主催「新入生歓迎特別講演会」を、「大学ってむずかしい?それともやさしい?本当はむずかしい」と題して、四月二二日(金)に九〇〇番教室で開催しました。

今年のスピーカーはロバート・キャンベル教授。先生の専門は、江戸中期から明治初期の文芸・芸術・メディア。驚くべき博識とわかりやすい口上で、テレビなどでもよく知られています。

今年の講演会は、三月十一日の震災の余韻が濃厚に漂う駒場キャンパスで、大変な緊張感の下で開催されました。先生はその時代によく読まれていたテキスト(漢詩や指南書など)をとりあげ、時にはその英語訳なども紹介されながら、丁寧にそれらを読み進めていきました。書かれたテキストの背景となっている当時の人たちの生活が鮮明によ



みがえってくる思いで、一同息を飲んで聞いたといつて過言ではありません。この講演を聞いて、心の中に静かな安堵や喜びが沁み込んだと感じた参加者も多かったと思います。

新入生のみならず、在校生や、会友となられた新入生のご父母も多数参加され、九〇〇番教室は熱心な聴衆で埋まっていました。

新入生父母と

学部長との懇談会



「の会場(駒場キャンパス)で入会案内を行いました。その結果、今年は八〇〇名余の方々にご入会いただきました(例年は三〇〇名程度)。

新入生父母を対象とする恒例の「学部長との懇談会」についても例年を大きく上回る多数の方々から参加申し込みを頂戴しました。五月二一日(土)の開催。例年は二〇〇名規模の行事ですが、今年はプログラムを急遽変更して、三三〇名余を懇談会にお迎えすることができました。

当日は会場の制約から二部制とし、学部長の講演→キャンパスツアーのグループと、キャンパスツアー→学部長の講演のグループの二つに分けて実施しました。キャンパスツアーでは、約十名に分かれた参加者を三五名ほどの教員が引率して、図書館、講義棟、課外活動施設、食堂、購買部、駒場博物館



館、教員研究室等にご案内しました。一号館時計台に登るツアーと懇親会はとくに好評でした。

当日の写真や感想は左記のホームページをご覧ください。ご参加いただいた方、ご参加いただけなかった方に、御礼とお詫びを申し上げます。
<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/lovekomaba>

第十一回演奏会

駒場友の会では毎年、総会の前に音楽会を開催しています。今年は、チェロの平野玲音さんとピアノの金子薫さんをお招きして、ハイドンからベートーヴェンにかけてのウィーンの音楽を楽しみました。

平野さんは、幼少の頃から職業音楽家としての専門教育を受けつつ、東大に入学され、文科三類在籍中にするまでに教養学部オルガン演奏会にご両親とともに出演されています。文学部で美学芸術学を専攻された後、駒場の表象文化論の修士課程を修了。現在、ウィーンを拠点に、チェリストとして活動されています。



駒場友の会では、毎年四月十二日の入学式会場(日本武道館)で資料を配布し入会案内を行っています。今年の入学式は、東日本大震災の影響で実質的に中止となりました(規模を縮小して開催)。

その変更を受けて、会では、四月一日と二日に行われた新入生の「諸手続

プログラムは、前半はハイドンとベートーヴェン、後半はグンツィ、パライスとフンメル作品で、いずれもモーツァルトとならんかの関わりがある魅力的な曲目でした。とくに、グンツィの「ドン・ジョヴァンニ」の主題による変奏曲は、有名なアリアがつぎつぎと繰り返され、チェロによる歌を満喫しました。

第八回総会報告

二〇〇四年三月に設立された駒場友の会は満七年を迎えました。

第八回総会を、五月二十八日(土)十六時四十分より、駒場コミュニティセンタープラザ北館二階多目的教室で開催しました。

議長である毛利秀雄会長による開会の後、長谷川壽一教養学部長の挨拶がありました。続いて、一高同窓会、東京高校同窓会から来賓祝辞を頂戴しました。

審議は以下の(一)～(五)の議案について行われました。

(一)二〇一〇年度事業報告

瀧田佳子理事より報告がありました。
 ①懇談会・講演会・演奏会などの開催
 新入生歓迎特別講演会(四月十四日)／新入生父母と学部長との懇談会(五月二二日)／第九回演奏会・リコーダーとリコーン(五月二九日)／駒場博物館特別展「自然エネルギーの世界(七月十七日から)／第十回演奏会・ハーブとフルートⅡ学際交流ホール改装記念

演奏会(十一月五日)／駒場の樹木をめぐる講演会とイベント・ホームカミンググデイ行事(十一月十三日)／寺神戸亮さん演奏会(十一月二十五日)／ロコモ体操教室の定期開催・渡會公治先生(十月から毎月二回)

②会報の発行、ホームページの拡充
 会報は十五号を九月に、十六号を三月に発行

③「学生のための寄付」とカレンダーの製作販売

五月の「新入生父母と学部長との懇談会」と年度末に「学生のための寄付」を実施し、それぞれ七九四、〇〇〇円、九一七、〇〇〇円(計一、七一一、〇〇〇円)のご協力をいただいた。支出としては「GENKI BOOKS」三一六冊など

一、〇二二、六九五円相当を駒場図書館に寄付したほか、学生の国際交流、新入生歓迎行事の補助などに充てた。寄付の収支差額(四四四、〇二八円)は二〇一一年度に繰り越して、支出の予定／ユータスくん学事カレンダー二〇一一年度版の製作を行い、好評を得た(壁掛け版と卓上版)

④会員・会友数(三月末日)
 終身会員九三名、通常会員四五八名、会友一、六二三名。一高同窓会一九三名、東高同窓会一一三名。計二、四八〇名(前年度末より一四九名増)

(二)二〇一〇年度決算
 山本泰事務局長より別表のとおり決算の報告が行われ、小島憲道監事よりその内容が適切である旨、監査報告がありました。

以上

	2010年度予算	2010年度決算	2011年度予算
収入の部			
1 会費収入	6,100,000	6,342,000	8,600,000
11 通常会員会費	2,000,000	1,836,000	2,000,000
12 会友会費	3,300,000	3,636,000	5,700,000
13 終身会費	800,000	870,000	900,000
2 寄付収入		1,851,915	4,100,000
21 学生のための寄付	1,300,000	1,711,000	4,000,000
22 その他		140,915	100,000
3 雑収入	17,000	9,280	6,000
31 預金利息	15,000	8,280	4,000
32 その他	2,000	1,000	2,000
小計	7,417,000	8,203,195	12,706,000
前年度繰越金	8,086,196	8,086,196	8,447,770
合計	15,503,196	16,289,391	21,153,770
支出の部			
1 印刷費	700,000	578,597	800,000
11 会報・案内等の印刷費	500,000	396,107	500,000
12 封筒・便箋等の印刷費	200,000	182,490	300,000
2 通信費	1,045,000	1,126,033	1,490,000
21 郵送料	1,000,000	1,041,440	1,400,000
22 電話使用料	45,000	84,593	90,000
3 事務経費	365,000	417,002	480,000
31 事務用品費	50,000	82,640	100,000
32 ゼロックス使用料	120,000	148,635	180,000
33 インターネット接続料	45,000	24,102	0
34 会費等振込料金負担	150,000	161,625	200,000
4 人件費	1,780,000	1,767,712	2,100,000
41 事務局スタッフ	1,600,000	1,568,712	1,800,000
42 臨時	180,000	199,000	300,000
5 運営費	983,800	1,073,962	1,203,500
51 事務室賃料	233,800	233,500	233,500
52 光熱水料	50,000	64,830	70,000
53 会員証作成費	550,000	556,095	700,000
54 その他	150,000	219,537	200,000
6 事業費	1,500,000	1,611,343	2,000,000
7 寄付	1,000,000	1,266,972	4,600,000
8 予備費	43,200	-	32,500
小計	7,417,000	7,841,621	12,706,000
次年度繰越金	8,086,196	8,447,770	8,447,770
合計	15,503,196	16,289,391	21,153,770

(三)二〇一一年度事業計画案
 瀧田理事より説明がありました。
 ①懇談会・講演会・演奏会などの開催
 新入生歓迎特別講演会(四月二二日)／新入生父母と学部長との懇談会(五月二二日)／第十一回演奏会・チェロとピアノ(五月二八日)／環境エネルギー体験教室／第十二回演奏会・ベネズエラ音楽の夕べ／駒場の樹木をめぐる講演会とイベント・ホームカミンググデイ行事(十月二九日)／ロコモ体操教室の定期開催・渡會公治先生

②会報の発行
 定期開催・渡會公治先生
 以上
 ③「学生のための寄付」とカレンダーの製作販売
 五月の「新入生父母と学部長との懇談会」と年度末に「学生のための寄付」を実施し、それぞれ七九四、〇〇〇円、九一七、〇〇〇円(計一、七一一、〇〇〇円)のご協力をいただいた。支出としては「GENKI BOOKS」三一六冊など一、〇二二、六九五円相当を駒場図書館に寄付したほか、学生の国際交流、新入生歓迎行事の補助などに充てた。寄付の収支差額(四四四、〇二八円)は二〇一一年度に繰り越して、支出の予定／ユータスくん学事カレンダー二〇一一年度版の製作を行い、好評を得た(壁掛け版と卓上版)

(四)二〇一一年度予算案
 事務局長より別表のとおり説明がありました。

(五)役員の一部交代と追加
 会長・毛利秀雄 副会長・竹田晃、遠山敦子 理事・浅野攝郎、江川雅子、大島利雄、風間勝昭、小島憲道、小林寛道、瀧田佳子、蓮實重彦、長谷川壽一、松本健、監事・山影進、関谷孝

以上
 以上の議案はすべて提案の通り承認されました。詳細は、駒場友の会のホームページをご参照ください。

今年度の新入生のご父母四四〇名余の方々より、被災学生支援のために三、二〇七、〇三五円をお寄せいただき、ありがとうございました。全額を東京大学(国立大学法人東京大学)に寄付しました。



GENKI BOOKS

Gender Equality: No-nonsense Knowledge and Information

GENKI BOOKS 始まりました!

瀬地山 角

二〇一〇年秋、駒場図書館の入り口を入って左奥のところに、新しいコーナーができました。駒場友の会から多額の寄付をいただき、大学の予算では買えないけれど、学生たちの生活に直結するようなジェンダー関連の図書を購入して誕生したコーナーです。

GENKI BOOKSとは、Gender Equality: No-nonsense Knowledge and Informationの頭文字を取ったものです。

駒場友の会事務局からの発案で始まり、図書館職員と計画を練りました。一部は国立女性教育会館から図書を借り受ける形とし、これは二ヶ月単位で先方にお返しします。一方、駒場友の会が予算を提供された部分については、駒場図書館の蔵書となります。自由に選書ができ、大学図書館っぽくない本も入れられるようになりました。

私は新たに購入する本の選書を任せられることになったのですが、二〇〇冊以上の本のリストを作るのは大変な作業です。そこで、私が担当している「ジェンダー論」の講義の履修学生から選書を担当するボラン

ティアを募りました。一、二年生の学生を中心に総勢九人のメンバーが集まりました。性別や科類、同性愛者など、セクシュアルマイノリティへの目配りといった面でも、とてもバランスのとれたメンバー構成になったと思っています。

まず各自の担当分野を決め、分野ごとに街中の本屋を覗いたり、図書館を見学したりした上で、それぞれのリストを持ち寄り、研究室で夜遅くまで議論をしました。みな本当に献身的に協力してくれて、感謝しています。毎日

自炊し、帰省すると毎食のように家族の食事を作る男子学生がいたりして、選書の集まり自体が楽しいものでした。風俗系のルポなどもあるため、タイ

トルだけ見ると正直に言って「ジェンダーの観点からこれはまずいんじゃない?」という感じのものも含まれています。担当したメンバーに説明を求めると、「これは実態調査としてすぐ資料的な価値があるので、タイトルだけで判断しないでほしいです」ときちんとした回答があり、そういうものになるべく尊重して残すようにしました。

大学図書館は学術書を集める場所なので、図書館にはたとえば、就職活動に関する本はまったくといっていいほどありません。このコーナーには、女子学生向けの就職情報、超初心者向けの料理の本、女性が安全にひとり暮らしをするためのハウツーもの、話題となった「東大生の性」に関する本、確実な避妊のためにカップルが読んでお

くべき本、ワーク・ライフ・バランスを実現するための本などを中心に、大学の図書予算では買えないけれど、学生の視点から見たときに必要不可欠な本をたくさん配架することができました。

もちろんジェンダー論は学問の分野ですから、男が家事ができるかどうかなどは、研究とは関係ありません。しかし一方でジェンダー論は、ジェンダーをめぐる政治と無関係ではあり得ない分野です。

たとえば環境問題を学ぶ人が自分のゴミの分別はしないなんて許されないのと同様に、「ジェンダー論で、日本の既婚女性の九割は夕食をほぼ毎日つくるのに対し、男性は三%と学んだけれど、自分は家事は何にもやりません」では何のために学んだのかと問われるはずだと私は考えています。

頭で学んだジェンダーとの関わりを自分の足元からもう一度見つめ直すために、GENKI BOOKSは役に立つべくけると信じています。

旬の本を集めましたので、その分すぐに時代遅れになるかもしれません。駒場友の会には引き続き、新しい本の補充にご援助いただくことがあるかと思えます。その節はどうかよろしくお願いたします。この場を借りて、駒場友の会のご支援に厚く御礼を申し上げます。

みなさんもぜひ一度配架された本をご覧になって下さい。

(国際社会科学専攻教授)

美しく立つ

渡會 公治

毎月第一、第三水曜日の十三時から一時間「中高年のための美しく立つ体操教室」を開いています。場所は、駒場キャンパスのコミュニケーションプラザ三階身体運動実習室。昼の部屋です。

立つ、歩く、二足直立歩行はヒトの特徴といわれます。病気や障がいであれば立つて歩けることは当たり前と考えられています。しかし、重力の世界で立つたり座ったりすることは結構大変なことなのです。一日の三分の一は寝ていないといけないのがヒトの特徴です。立つ、座る中で疲れてくるといろいろな症状が出てきます。腰痛、肩こり、足腰の痛みなどです。ひどくなると日常生活動作に困るようになります。加齢とともに、個人差が大きくなります。

ヒトを考えると赤ちゃんは立てません。立てよ歩めよとほめられ、励まされやつと一年くらいで何とか立つて歩けるようになります。しかし、歩けるようになった後、よりよい歩き方、よい立ち方を指導された方は少ないのではないのでしょうか。歩き方や立ち方を含めた日常生活動作そのものを改善して足腰の痛みに対応していこうという考えでこの教室をおこなっています。

これまで駒場で「美しく立つ」というゼミや共通授業「基本動作・立つ」を開講し、あらためて自分の身体について

学ぼう、立つことを考えようと展開してきました。「正しく」と考えると難しいので、「美しく立つ」と言うようになりました。トップアスリートやバレリーナ、歌舞伎役者の一瞬の立った姿を見て美しいと思う人は多いのではないのでしょうか。これをめざそう、その背景にある身体の構造を学んで、いい構えを識別できるようにトレーニングをする、これがこの教室の目的です。

キーワードは三つのA、アナトミー、アライメント、アウエアネスです。アナトミーとは解剖学、つまり身体の構造と機能を学びます。アライメントとは骨関節の並び方、並べ方です。いいアライメントで立ち、歩きましょう。アウエアネスは気づくことで、いいアライメントとちよつと違うアライメントを識別できるようになります。いつも行う基本体操は三つのS、ストレッチング、スクワット、スパイン背骨の体操です。こうした身体の仕組みについて目を向け身体を動かしていきます。



(帝京平成大学教授、スポーツ身体医学)

毎回二〇名くらいの参加者が集中して取り組んでいます。興味のある方は駒場友の会事務局に連絡の上、ご参加ください。

追悼・嘉治元郎先生を偲ぶ

本間 長世

本会発足時に副会長を勤められた嘉治元郎先生は、本年七月二三日朝急逝され、八五年の生涯を全うされて帰天された。

嘉治先生と私とは、東京高師付属小学校(現在の筑波大付属)以来の先輩後輩の間柄で、長年にわたって深いおつき合いをさせていただいたので、以下嘉治さんと呼ばせていただきたい。

私は、旧制第一高等学校の最後の年の生徒として一年を過ごし、新制東京大学に創設された教養学部教養学科の第一期生となったので、東大生としての授業は引き続き駒場の教室で受けた。嘉治さんは、教養学科の助手として私たち学生の兄貴分のような存在だったと思う。特に、私のようなアメリカ科の学生は、アメリカの経済や社会について経済学者嘉治さんに教えてもらうことが多かった。

その後、私は教養学部教授会の一員となり、先輩の嘉治さんとは同僚の関係となった。やがて嘉治さんは教養学部長を勤められ、私も間を置いて学部長に選ばれた。嘉治さんは東大本部で総長特別補佐(当時の役職名)もされ、何代かのうち私も同じ役を勤めることになった。私としては、何だか嘉治さんに引張られているような気がしたこともある。

嘉治さんは、頭脳明晰であったが鋭角的なところがなく、沈着冷静で決して大袈裟なことは言わなかった。物事を見る目も公平で、好き嫌いが本来ははいけないと自分に言い聞かせたことが何度もあった。もっとも、私と二人で話す時の人物評は、時に辛辣な場合があったが、幸いにしてほとんどの点で私も同意見だった。スポーツマンとしての爽やかなさを備えた、都会的センスの豊かな人柄に私は魅せられていた。

駒場友の会が誕生するまでには多くの方々の努力があり、準備委員会も何度も開かれたと思う。会の目的と活動、会則等の作成と並んで、一高同窓会との関係をどう円滑に結ぶかが大問題だった。

嘉治さんは、一高同窓会の役員として準備委員会で他の気付かぬ点などを指摘され、会則案がそれによって改良されたところがあつたように記憶している。これは私が他の場所でもしばしば感心したことだが、嘉治さんは、現在ではさしあたってこれで良いとして、事情が変わった時はどうするかという問題を投げかけることを、さりげなく発言するのが上手だった。

平成十六年三月に駒場友の会が発足し、会長には学制改革の移行期に駒場の学生だったというので私が選ばれ、



嘉治元郎先生(写真提供: 東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センター)

嘉治さんには副会長になっていただくことをお願いした。同じ年の十一月に一高同窓会理事会が新体制となり、嘉治さんは理事となり、翌年一月に一高同窓会事務局が駒場に移転した。

駒場友の会は、発足時に私が抱いていた不安をふき飛ばして活発に活動している。在天の嘉治先生も満足して見守っていて下さるに違いない。

爽やかな風に包まれてゆったりとくつろぐことのできる

フランス料理 ルヴェ ソン ヴェール 駒場

駒場友の会の皆様がお食事の際に注文なされたコーヒーは、お支払いの際に会員証・会友証をご提示下さいますと無料になります。

営業時間 11:00 ~ 14:30, 17:00 ~ 21:00

Tel: 03-5790-5931 / Fax: 03-5790-1902

駒場ファカルティハウス内

駒場友の会会報 第17号

2011年9月15日発行

駒場友の会

〒153-8902

目黒区駒場3-8-1 東京大学

駒場ファカルティハウス内

電話 03-3467-3536

FAX 03-3465-3334

郵便振替口座

00170-3-481649

メール

info-tomo@adm.c.u-tokyo.ac.jp

ホームページ

http://www.c.u-tokyo.ac.jp/

ilovekomaba/

デザイン・印刷 株式会社双文社印刷

http://www.sobun-printing.co.jp